

日本科学未来館イベント「こどもからみる不思議世界探求」

にご参加いただいた皆様へ

2025 年 8 月 11 日～14 日、および 18 日・19 日に開催された本イベントにご参加いただき、誠にありがとうございました。多くのお子さんとその保護者の方々にご協力いただき、おかげさまで大変貴重なデータを得ることができました。心より感謝申し上げます。

ここでは、新谷が担当した「からだのシルエット、えらんでみよう！」の実験結果について、参加者全体の傾向を報告いたします。

研究実施者：新谷春都（中央大学）

E-mail：hshinya432@g.chuo-u.ac.jp

研究統括者：山口真美（中央大学）

研究概要

ボディ・イメージとは、自分の身体的外見だけでなく、身体に関する多面的な心理的経験を指します（Cash, 2004）。日本では、ボディ・イメージの研究は中学生以上の女性を対象にした研究が多いのが現状であり、高校生の女の子は自分の体型よりもかなり痩せた体型を理想とする傾向が報告されています（鈴木, 2023）。このような傾向が小学生の女の子にみられるか、女の子と男の子でその傾向に違いがあるのかを検討するため、小学生（6 歳～12 歳）を対象に実験を行いました。

実験では、自分のジェンダーを 1（女性）～7（男性）の間で評価していただきました。その後、自分の現在の体型に最も近いと感じるシルエット図を 7 枚から 1 枚選択する課題（男性シルエットと女性シルエット）、自分の理想体型を 7 枚から 1 枚選択する課題（男性シルエットと女性シルエット）全てを 2 回ずつ行っていただきました。

結果

図 1 は年齢ごとのジェンダー度数を出生時の性別ごとにプロットした散布図です。出生時の性別によって現在体型と理想体型に差がみられるのかを分析しました。その結果、女性のみ理想体型が現在体型よりも低いことが明らかになりました（図 2）。このことから、小学校の女の子は高校生の女の子のように「自分の体型よりもかなり痩せた体型」を理想とする傾向があると考えられます。今後はジェンダー・アイデンティティによって現在体型と理想体型の差が異なるのか、保護者のボディ・イメージがお子さんに影響を与えるのかを検討していきたいと考えております。

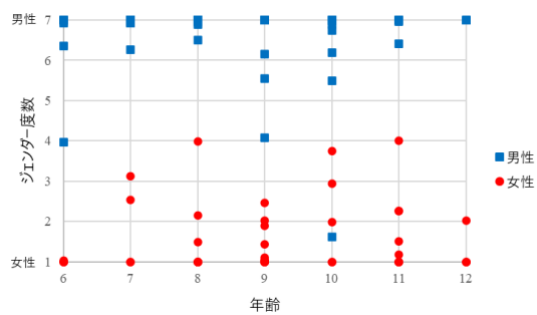


図1：年齢とジェンダー度数の関係（6～12歳）

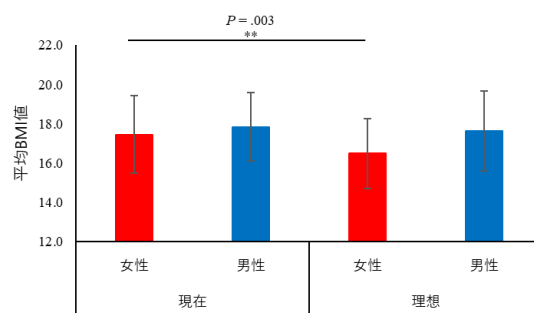


図2：出生時の性別ごとの現在体型と理想体型の平均BMI値